

# 30E-pm08

コガネノウゼンの成分研究

○高橋 伸治<sup>1</sup>, 杉本 幸子<sup>1</sup>, 松浪 勝義<sup>1</sup>, 大塚 英昭<sup>1</sup>, 武田 美雄<sup>2</sup>(<sup>1</sup>広島大院医  
歯薬, <sup>2</sup>安田女大薬)

【目的】コガネノウゼン *Tabebuia chrysotricha* はノウゼンカズラ科 Bignoniaceae に属し、南アメリカのコロンビア、ブラジル等に分布する落葉高木である。我々は未利用植物資源の有効利用の一環として、沖縄県で採取した同植物の葉部の成分研究に着手したので以下報告する。

【方法・結果】コガネノウゼン葉部の乾燥葉 (8.55 kg) を MeOH で抽出し、順次 *n*-hexane、EtOAc、1-BuOH で溶媒分配した。得られた 1-BuOH 可溶画分 (146 g) を Diaion HP-20、silica gel、ODS カラムクロマトグラフィー、DCCC および HPLC を用いて繰り返し分離精製を行い、その結果、新規リグナン配糖体 2 種 (**1**, **2**)、新規芳香族配糖体 1 種 (**3**) を単離した。得られた新規化合物の化学構造は、NMR スペクトルを中心に各種スペクトルを用いて解析を行い、下図のように構造を決定した。

